

松ヶ崎少年補導だより

下鴨少年補導委員会
松ヶ崎支部

発行責任者
支部長 北川 憲一

「いい学校」は「いい地域」にできる

松ヶ崎小学校 PTA 会長

宇佐美 賢

平成二十四年度松ヶ崎小学校 PTA 会長をさせていただいておられます。宇佐美賢一です。平素は松ヶ崎小学校の児童の健全育成、安心・安全に、また PTA の活動に大変ご協力をいただきまして有難うございます。この場をお借りしまして厚く御礼申し上げます。

さて、松ヶ崎小学校もそうですが、京都市ではコミュニティスクール（地域に開かれた学校）の取り組みが盛んに行われ、設置学校数をみても全国で突出しております。京都市では小学校のほとんどに学校運営協議会が設置され、中学校でも順次導入が進み、今年二月に下鴨中学校にも学校運営協議会が設置されました。先だって、少年補導委員会の北川会長と一緒に私も下鴨中学校の協議会の発足式に出席し、理事の委任をいただいております。

葉です。金子先生はコミュニティスクールの核として住民が参加して学校の運営を決める「学校運営協議会」の法制化、またその協議会がしっかり学校運営の成果を見極めるためのツール「学校評価システム」導入の中心的な役割を果たされました。

私は、この先生の言葉に、なるほどものともだなあと感心いたしました。「いい地域」にできる。ほんとうにそうだなあと感じます。学校の果たすべき役割、また保護者から学校に求める要求が、社会の変化にともなう多様化、複雑化している今、「学校ってなんだろう」、「地域ってなんだろう」と思い直すきっかけになる言葉でした。保護者が何かも学校まかせ、子どもたちが日々暮らす地域全体も子どもたちを顧みないようなことでは大変なことになってしまいます。幸いに松ヶ崎学区は、先輩の皆さまのおかげで京都市内でも有数の落ち着いた文教地区となつていますが、今後も絶対というわけではないと思います。

どこまでを学校がするか、どこまでを保護者がするのか、どこまでを地域がするのか、そういった議論ではあんまり答えは見えてこないと思いますし、実際そういつた押し付け合いの発想ではうまくいくとは思えません。そうではなくて、まずはそれぞれが自分の役目を自覚してしっかり役目を果たそう、そしてお互いに足りないところを助け合おうという発想が必要なんだとあらためて思った一年でした。そういった意味で、地域住民を代表する皆さん、保護者、学校管理者が一堂に会する学校運営協議会の場合は大事な位置づけを持つと感じます。少年補導委員会の皆さまには松ヶ崎小学校の運営にいつそう期待申し上げる次第です。

さて、世の中がインターネット社会になって久しく、私自身も仕事にプライベートにインターネットを活用しその便利さを実感しています。しかしながら、誰ともかわらないでネットでスパーの買い物ができる、インターネットのオンラインゲームで知らない人同士がネット上で夜通し会話をしている、そんな側面もインターネットにはあると思います。パソコン並の性能をもつスマートフォンが普及することによって子どもたちにとってもそういった世界が一層近くなってきた。

そんな時代だからこそ、今まで当たり前で意識していなかった、人と人との触れ合い、会話、助けあい、たまにはおせっかい、そういったことを子ども達にしっかりと経験をして欲しいと思います。

毎年、少年補導委員会の皆さまには松ヶ崎小学校での飯盒すいさん子どもフェスティバルなど大人と子ども、また大人同士、子ども同士が触れ合う楽しい企画を継続して行っていたいただき感謝申し上げます。今後とも、松ヶ崎学区の子どもたちを優しく見守っていただきます様に心からお願ひ申し上げます。



正田町 SS さん

どの子にも 手をぬくもりを さしのべる

消防団員はボランティアの雄と言えるかな？

松ヶ崎消防分団長 芝山 宗昭

ボランティアとは、公共福祉のために自主的に、活動する人。やや厳しく安全にかかわる任務を帯びている点で、消防団員はボランティアの雄だ、と賞賛されることもあるが、詰所にたむろする体育会系酒好き親父集団、との批判も聞こえる。

今の時代、成人男子は、商売・職人・会社勤め・役所勤めなどに専従し、自分の住む場所の自然や環境や隣人を見ず、安全は消防署・警察署に、生活諸事は業者頼みにする人が多いようです。でも、役所は全能ではないし、業者が緊急事に対応してくれるとは限りませんね。筆者は長年、専門職サラリーマンでボランティアと無縁の生活を送っていましたが、五十代半ばから社会人としての不十分さを感じることも多くなり、六十一歳で早期退職しました。

縁あって消防団その他のボランティア活動に従事することができ、現在はまずまず納得して生活中！皆さんに新しい世界を知って頂きたく、一文を認めました。

消防団は必要かな？
松ヶ崎分団の履歴…専業の署員の人数や装備が不十分であった戦後、ボランティア消防団は不可欠な存在。消防局の下に区ごとの消防署と消防団が、消防団(本団)の下に小学区を担当する分団が設置された。松ヶ崎分団は二十三年九月、二十名で発足。当時は乙区

域(通報後十分以内に消防車が到着する区域)指定であり、学区を越えて初期消火を行なっていた。その後消防署や出張所の整備が進み、三十五年には甲区域(五分以内)に到着する区域)に変わり、消防ポンプを返納。災害時の任務は、周辺警戒に切り替えられた。地区の人口が急増した五十七年、広さ四〇〇平米の詰所兼器具庫が完成。阪神淡路大震災を教訓に、九年にはAEDや無線機が配備された。これまでの災害…戦後、松ヶ崎学区では全半焼規模の家屋火災が年間二件程度発生していたが、家屋の不燃化や暖房器具の進歩にあわせ一件以下に減少した。ハイカーや子供の遊び原因の畑や林での火災も半減したが、浮浪者の火の不始末が原因の火災は根絶できていない。水災・風災は排水路整備が進んだ一九七〇年代に収束したが、最近、山裾での出水や倒木など局所被害が発生し始めている。これからの災害…区内では昨年、独居者のコンロ周りの失火で火災が急増した。最近の経済格差は浮浪者を増加させ、宝ヶ池公園や里山での火災増につながることも懸念される。プレート運動による地震発生の危険性が高まっているが、その場合に全市規模の家屋倒壊・家具転倒・死傷者発生・火災発生に繋がる。

消防団は必要だね！…山林火災は消防署装備が効き難い火災である。地震による広域同時発生の災害では、消防署員数が不足する(当直署員を学区に割り付ける、二〜三名)。これからの災害では、消防団の任務は現状の、周辺警戒に留まらず、主力として働く事態になりそうです。
送り火や神社節分祭などで行なう警防活動および予防広報活動は現状どおり必要。
消防団の力は十分かな？
プラス面…十年前から入団者が続き、三十代一人、四十代十三人、五十代六人、六十代五人、七十代一人で、平均年齢五十一歳に若返った。郷土愛に富むOBや意欲的な校長や元気なPTA役員が小中学校運営協議会に結集し、コミュニティ活動に目覚めた親父を輩出して頂いたためと感謝感謝。
マイナス面…入団後五年未満が十人、五年超十年未満が六人と、経験の浅い団員が多い。また、日中に学区内で勤務する団員は総員の1/4、半数は市内遠方、残りの1/4は市外や府外勤務であり、中規模の災害出動には人数不足。地域に喜ばれ、団員も嬉しい消防団を目指して！
・マンパワー不足を解消すべく、近場の勤務者や元気な退職者に入団を働きかける。
・新入団員の技術習得を急ぐ。さらに、大規模地震時を想定した被害調査、救出、自力消火などの新しい訓練を開始する。
・地域に喜ばれ、団員も嬉しい消防団を合言葉に進む予定ですので、地域の皆様のご批判、ご助言、ご協力を賜りますようお願いいたします。

窓

「散歩」

木ノ本町

小山葉子

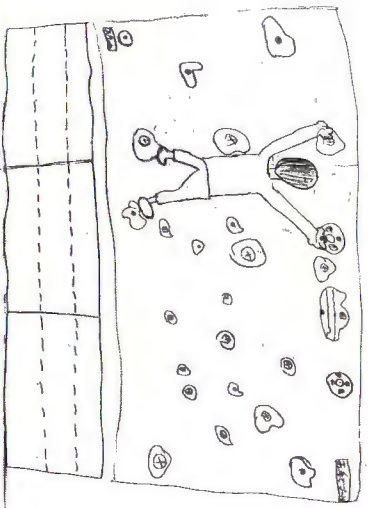
我が家には三歳の犬がいます。毎日、朝と夕方散歩に行きます。犬と一緒に散歩しながら松ヶ崎の季節を楽しんでいます。
春は菜の花の黄色と桜のピンクが見事な高野川。野鳥もたくさん来ています。夏の早朝、新宮神社さんの脇の山道、行かれたことありませんか？いろいろな小鳥たちのさえずりがとても気持ちよくてまるで信州の森の中にいるみたい。
旧街道の小川に朝早くから沢ガニやザリガニ取りの子ども達が集まっている風景。桜木町のホテル。宝ヶ池……。大きな蔵がまだ残っている古いりっぱなお家。子ども達の楽園に抜ける水がとうとうと流れている疏水があるあの道……。手入れされてりっぱな実をつけている畑の農作物。珍しい白い彼岸花が咲く小道……。





11月3日 土曜日
 2年1組 井本あやな
 土曜日予てアスレの行事
 した。おかげで之行きました。
 いくかの甲子園ゲームがありました。
 いろいろありました。わくわくして
 ひがわらっていました。そして最後
 じやうふたんとくさのがかじはじ
 して本まつりでした。行きました。
 わたしはごらんやだにたんまをま
 とがらつのおひまじだをいませ
 せんかくがたがたがただけの紙ま
 した。だのしかなじぶアスの
 ました。うひかともあそび
 びらしました。またじやうふた
 もつたにじま。

松ヶ崎小学校 2年1組 井本あやな



11月3日 土曜日
 2年2組 木村まさと
 今日、はまのびるのフェスティバルは
 行きました。はじめにドラクワイミング
 もじました。はじめにドラクワイ
 ミンガをするとき、きんちゃん
 うしてあせでまがすべでおち
 てしまいましたが、何回もなしに
 たけれど、ゴールまで行けません
 でした。とてもくやしかったです。
 れど、とても楽しかったです。
 来年はゴールをめざしたいです。

松ヶ崎小学校 2年2組 木村まさと



子供フェスティバル (十一月三日)

うどんコーナー・ゲームコーナー・
 しめなわコーナー・消防団コーナー・
 PTAの方のコーナー・ロックンライミン
 など楽しい一日を過ごしました。

平成二十四年度 表彰受賞者

平成二十四年度の受賞者は左記の方々です。おめでとうございます。

受賞者の皆様のさらなるご活躍とご協力を祈念いたします。

京都市少年補導委員会

会長表彰

金賞 周 栄 妙子

榎 本 レイ子

銅賞 庄 司 尚文



支部活動 状況報告

前号に引き続き、当支部のその後の活動状況につき、ご報告いたします。

及び懇親会をアピカルインにて行いました。フェスティバルの反省や来年に向けて話し合いました。

8 十一月二十四日 京都工芸繊維大学学園祭構内パトロールを行いました。

9 一月十四日 アピカルイン京都で行われた松ヶ崎消防分団出初式に出席しました。

10 一月二十六日 松ヶ崎児童館主催の新春お楽しみ会のお手伝いをしました。

11 三月十二日 松ヶ崎少年補導だより第五十六号の編集会議を行いました。

12 三月二十一日 松ヶ崎少年補導だより五十六号編集委員会文字の構成や紙面のレイアウトにつき、手直しいたしました。

その他、青色回転灯装着車によるパトロールを随時行っています。また、毎月第四金曜日に古紙回収を行っています。皆様のご協力に感謝いたします。

支部長 北川 憲一

少年補導の歌

東 政治郎 作詞
蔵田 春平 作曲

一、明るい街に 人は和し
明るい家に 子は伸びる
大人子供は しっかりと
心をつなぎ 手をつなぎ
何でも話す 子になろう
何でも聞ける 親になろう

二、涙する子は ふいてやり
迷える子には 道教え
許し励ます 親心
子供は親の 鏡なら
我が子他人の 区別なく
みんなでもう そう補導の光

三、善意はみのある いつの日か
あの子にはかえる 夢さめて
貫く愛に 真実に
こたえてくれた 子の笑顔
その喜びと 使命こそ
消してはならぬ 補導の灯



- 1 九月三十日 松ヶ崎少年補導だより第五十五号を発刊し、三〇〇部を印刷、市政協力委員さん、隣組長さんらのご協力により、全世帯、関係機関に配布いたしました。
- 2 十月七日 第五十八回区民運動会に協賛参加いたしました。
- 3 十月九日 支部役員会第二十七回子供フェスティバルについて、催し内容や役割分担について検討いたしました。
- 4 十月十四日 京都アスニーにて行われた表彰と研修会に出席いたしました。
- 5 十月二十四日 支部役員会第二十七回子供フェスティバルについて催し内容、役割分担の最終確認を行いました。
- 6 十一月三日 第二十七回松ヶ崎子供フェスティバル ボランティアアキッズやPTAの皆さんにお手伝い頂き、楽しい一日となりました。
- 7 十一月九日 支部役員研修会

